

キャリアマトリックス

開発の背景とこれまでの展開

現在、学校や企業などにおいて、多くの人々がどんな将来を選ぶべきか進路決定や就職に迷ったり、現に働いていても自分のキャリアをどう伸ばせばよいかと悩んでいます。一方、企業の側でもいかに適切な人材を採用し、適所に配置し、能力を高め、いきいきと高生産性のもとに働いてもらおうかと腐心しています。

そして現在、わが国は、厳しい国際経済環境の下で生き抜いてゆくために、この個人と産業社会の双方のニーズを調和・実現してゆくことが強く求められています。

キャリアマトリックス（CMX）は、仕事についての総合情報データベース（百科事典）であり、適職診断テストや教育用のツールをも併せ持つ総合的なガイダンスシステムですが、個人へのキャリアサポートや労務人事で企画運営にあたる方々を支援するために開発された総合情報システムでもあります。

これからフォーラムに入るに当たって、なぜCMXが生まれたか、その背景と開発、展開について簡単にご説明します。

1 CMXの生まれた背景は

今日の状況

- ・グローバルな競争の激化
 - 国際的な仕事の奪い合い、仕事の重みと賃金は「国際相場」へ
- ・個々の人材活用が至上命題
 - 仕事とヒトのマッチング 適材の採用・適所に配置
 - 個々人の精鋭化 能力開発・自己啓発
- ・雇用の流動化 労働市場での円滑流通へ
- ・個人キャリアの自己責任化 自分のキャリアは自分で選び、伸ばす

2 なにが求められているか

生成消長・変化著しい現代の仕事

- ・仕事の流通と能力開発のための「共通言語」
 - 採用・配置・職務転換・キャリアアップの基礎情報 JIS規格のように
- ・仕事・人生キャリアを考えるための「総合カタログ」

3 国際レベルのツールへ

国際的な人材活用・開発競争が激化

- ・「21世紀において米国が国際競争に打ち勝つ唯一の道は、コミュニケーションネットワークに

結ばれた、世界で最も良く教育訓練を受け（適切に配置され）、どこにも引けをとらない労働力を持つことである」（クリントン大統領 1993年）

- ・ 1995年、米労働省の情報システム「O*net」が世界に先駆け、社会インフラとして運用開始
- ・ 構造改革・失業に悩む欧州も追随

4 開発の過程で メイキング・オブ CMX の 7 年間

官の反省・民に学ぶ 「作るより売るほうが十倍百倍難しい」（松下幸之助）

- ・ システム 使ってもらえるわかりやすいシステムに
- ・ 情報の収集 四苦八苦して 700 職種・300 万人の調査を実施
- ・ 使い勝手 現場第一線で 4 年間の観察とトライアル
- ・ ユーザーPR ユーザーテスト、訪問勧奨、使用セールス

5 これまでの歩み

まず若者から、より広く企業や一般に

- ・ 高校から大学へ デファクトツール化、PV を確保
- ・ 民間の職業情報の基礎に
- ・ キャリア・カウンセリングの盲点对応に
- ・ 企業内での活用はこれから

6 これからは

ユーザーとの双方向コミュニケーションが基盤

- ・ キャリア関係情報の社会的な基礎インフラに
- ・ 社会各セクターの創意工夫による活用を期待（将来的に）